

多くの日本企業では、主力事業の成熟やグローバル競争の激化、コア技術の成熟などの経営環境の変化に伴い、技術経営に関わるさまざまな重要課題（新規事業やイノベーション創出、研究～事業の橋渡し、ニーズとシーズのマッチング、将来技術開発テーマの設定など）が山積しています。しかしながら、その課題解決の第一線に立つべき中核人材をどのように育てていけばいいのか、どのような技術マネジメントのリタラシーを学ばせればいいのかなど、まだまだ暗模索状態にあるように思われます。一方で、事業経営センスやリーダーシップ不足も大きな課題になっております。

上記のような認識を踏まえ、本研修は、将来を嘱望されている中核的な、研究・技術開発リーダー、技術と市場の接点での事業推進者、新規事業開発担当者などに、MOT（技術経営）のエッセンスやそのリーダーシップの本質を、深く考えていただく機会を提供するものです。

将来の技術経営職（CTO）や高度技術基幹職を育てる上で、現場の第一線リーダーから、（技術）マネジメントリーダーへの転換点にある35才から45才前後が、極めて重要な時期にあります。日本のリーディングカンパニーの一線を担う参加者が相互に啓発しあうことを通じ、現在の経営課題解決への寄与することを期待し、将来のMOT（技術経営）リーダーの土台作りを狙いととしています。

記

1. 対象：将来、技術経営（MOT）の軸として成長することを期待されているリーダー候補者
*R&D、技術開発、事業部、新規事業やプロジェクト担当などの、35才～45才前後の方
*各社とも最優秀人材をご派遣くださるよう、お願いいたします。
2. 各社派遣人員：異業種交流の効果を高めるため、各社3名の派遣をお願いいたします。
*全体では5社15名の参加者で構成し、企業や業種の特徴を際立たせることで、自社のあり方を深く考える場といたします。
3. 第4回参加予定企業（5社）：
*サントリー（食品）、セイコーエプソン（エレクトロニクス）、クレハ（中規模総合化学）、住友林業（住宅メーカー）、富士フイルム（化学）
4. 研修目標
*技術経営の視点に立ち、事業やMOT（技術経営）の原理原則／リタラシーを学ぶとともに、リーダーシップのあり方を考える。
*同じ立場の異業種メンバーとの交流により、自社や自らのクセ・強み・弱みを認識する。
*最終的には、各社毎に、「自社の技術と経営」というテーマで発表していただきます。

5. 主な内容：

*経営・事業のリタラシー：全体の30%

(経営戦略の考え方、事業化の意思決定、経営戦略を組み立てる、等)

*MOT(技術経営)のリタラシー：全体の40%

(技術ドメイン、コアテクノロジー、技術の事業化プロセス、技術蓄積と企業成長、技術の育て方)

*MOTリーダーのあり方：全体の20%

(イノベーションとリーダーシップ、イノベーションを興す風土など)

<予定使用教材>「競争戦略」(加藤著)、抜粋資料「技術を武器にする経営」(伊丹/宮永著)、
抜粋資料「MOTの達人」(森、鶴島、伊丹著)など

～スケジュール表を添付いたします～

6. 実施時期・場所：1泊2日×4セッション合宿スタイル 於：クロスウエーブ府中(京王線府中)

☆第1セッション 平成30年11月2日(金)～3日(土)

☆第2セッション 平成30年11月30日(金)～12月1日(土)

☆第3セッション 平成31年1月11日(金)～12日(土)

☆第4セッション 平成31年2月8日(金)～9日(土)

*参加企業や担当講師の都合により、変更の可能性があります

7. 講師団(予定)

主任講師 : 加藤俊彦(一橋大学大学院商学研究科教授:経営戦略)

講師(予定) : 島本 実(一橋大学大学院商学研究科教授:経営史)

〃 : 藤原雅俊(一橋大学大学院商学研究科准教授:経営戦略)

ゲストスピーカー: 富士フイルム副社長兼CTO 戸田雄三氏)

コーディネーター&講師:

神谷隆史(戦略人材開発研究所所長・元東京理科大学イノベーション研究科MOT専攻教授)

10. 受講料 : 210万円/3名(消費税込み、資料・書籍・宿泊・食事料含む)

11. 運営担当: 戦略人材開発研究所(ISH): 代表取締役所長 神谷隆史、 取締役 鎌谷宮子

電話 : 03-5464-6333 Eメール: info@ish-senryaku.co.jp

以上